



〈展覧会紹介〉	特別企画展「小野忠弘 —創作の軌跡、新しい光—」	[2～3]
〈イベント報告〉	特別企画展「水庭に美をあつめて～佐川美術館コレクション」	[4～5]
〈イベント報告〉	「風景画綺譚」「昭和 100 年記念 残映ランドスケープ」	[6～7]
〈イベント報告〉	「昭和 100 年・生誕 160 年記念 島田墨仙」	
〈報告〉ボランティア研修報告		
次回展覧会のお知らせ		[8]
展覧会特別メニューのお知らせ		
休館日のお知らせ		

表紙：小野忠弘《BLUE》(部分) 1995 年



小野忠弘

創作の軌跡、新しい光

2026年 7月18日(土)～8月30日(日) 福井県立美術館
〔休館日〕 7月27日(月)、8月3日(月)、10日(月)、24日(月)



小野忠弘《BLUE》1995年

〔開館時間〕 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
※7月18日(土)は午前10時～

〔観覧料〕 一般1,400円（前売り・団体1,100円）
高校生900円（団体700円） 小・中学生600円（団体500円）

※団体は20名以上。※学生の方は学生証の提示が必要です。
※障がい者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は半額。※未就学児は無料。
※入場制限を行う場合や中止になる場合があります。
●前売券販売 6月6日(土)～7月17日(金)
＜コンビニ端末＞チケットぴあ(Pコード：687-501)、ローソン(Lコード：51036)

〔主催〕 小野忠弘展実行委員会（福井県立美術館、福井テレビ）

〔企画〕 西村直樹（福井県立美術館）

〔演出〕 戸田正寿（アートディレクター）

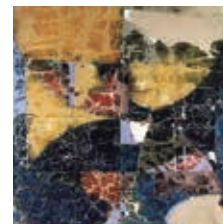
〔後援〕 福井新聞社

〔お問合せ〕 福井県立美術館 〒910-0017 福井市文京3-16-1
TEL：0776-25-0452

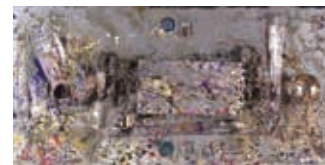
1913年青森に生まれ42年に福井の住人となった小野忠弘は、2001年に没するまで約70年間にわたって超人的ともいえるヴァイタリティーを持った制作活動を繰り広げました。その独特の造形意識は、サンパウロ・ビエンナーレやヴェネツィア・ビエンナーレなどの国際的な舞台において高い評価を受けました。80年代後半からは、50年代に制作した半立体作品と60年代中盤から80年代にかけて追求した平面的な絵画表現が融合したかのような強い存在感を持った作品を次々と発表しました。

小野は90年代にはいと「自らが収集してきた美意識の結集化とそれらの境界の探求」を試み、この意識を《BLUE》《Silver》といったシリーズで表現。これらの制作は創作活動の集大成として、2001年8月に作家が亡くなる直前まで続けられました。

小野が没してから四半世紀となる2026年。この年に開催される本展では、1990年代の小野を代表するシリーズを網羅。併せて、初期から中期にかけての代表作を展示するとともに、未発表作品を初公開し、小野忠弘の表現の深層に迫ります。



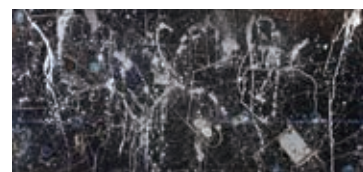
福井県立美術館蔵
《ジャン・グリス・ドスキン》1969年



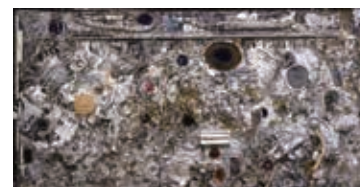
富山県美術館蔵
《ポスト・エスニック》1992年



福井商工会議所蔵
《白鳳の街》1993年



福井新聞社蔵
《BLUE》1995年



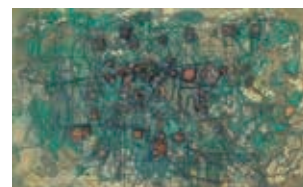
青森県立美術館蔵
《-シロー-》1999年



青森県立美術館蔵
《砂のなみだ》1999年



青森県立美術館蔵
《ポートレイト》1951年



公益財団法人大原芸術財団 大原美術館蔵
《ムチンのY》1957年



国立国際美術館蔵
《赤い砂》1959年



高松市美術館蔵
《はがねの針目》1959年



奈良県立美術館蔵
《はがねの針目》1959年

関連イベント

創作の軌跡、新しい光

●「見どころ解説会『小野忠弘 創作の軌跡』」

〔日時〕 会期中日曜日 午前10時30分～約30分
〔講師〕 西村直樹（福井県立美術館副館長(学芸)）
〔会場〕 <当館講堂> 参加無料 事前申込不要(当日直接会場へ／先着40名)
※ただし「トークショー」「対談」「座談会」実施日は開催しません。※上記開催日以外にも追加開催する場合があります。
※詳細は福井県立美術館HPをご覧ください。

●「トークショー『小野忠弘 創作の軌跡、新しい光』」＋「対談『小野忠弘とは何だったのか』」

〔日時〕 7月26日(日) 午後2時～午後3時30分
〔トークショー講師〕 西村直樹（福井県立美術館副館長(学芸)）
〔対談登壇者〕 戸田正寿（アートディレクター）× 西村直樹（福井県立美術館副館長(学芸)）
〔会場〕 <当館講堂> 参加無料(展覧会観覧券の提示が必要です) 事前申込不要(当日直接会場へ／先着50名)

●「座談会『小野忠弘のクリエイティヴ』」

〔日時〕 8月2日(日) 午後2時～午後3時
〔登壇者〕 戸田正寿（アートディレクター）× 赤土善蔵（建築家）× 西村直樹（福井県立美術館副館長(学芸)）
〔会場〕 <当館講堂> 参加無料(展覧会観覧券の提示が必要です) 事前申込不要(当日直接会場へ／先着50名)

●「座談会『晩年の小野忠弘を語る』」

〔日時〕 8月23日(日) 午後2時～午後3時
〔登壇者〕 坂本英雄((有)坂本硝子代表)、他 × 西村直樹（福井県立美術館副館長(学芸)）
〔会場〕 <当館講堂> 参加無料(展覧会観覧券の提示が必要です) 事前申込不要(当日直接会場へ／先着50名)

※入場制限を行う場合や中止になる場合があります。※その他の関連イベント等については、福井県立美術館HPをご覧ください。



《イベント報告》

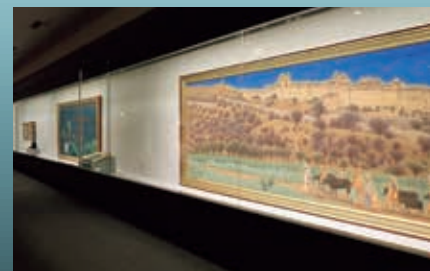
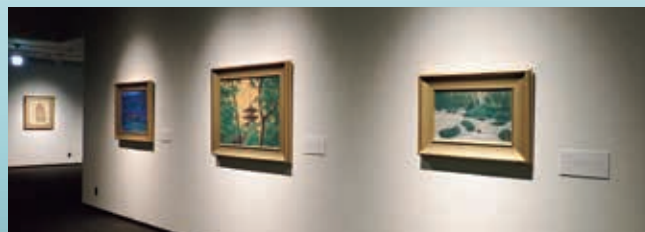
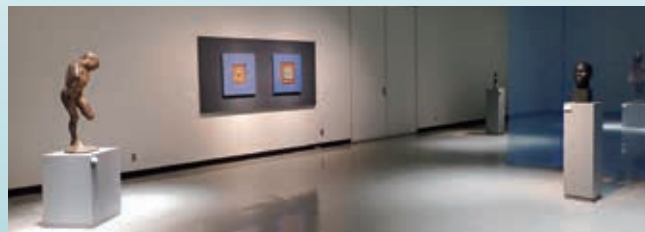
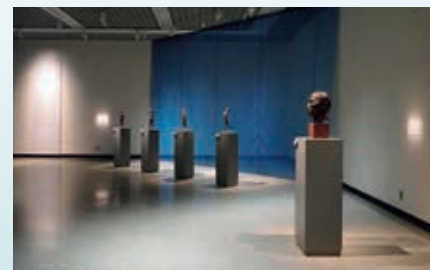
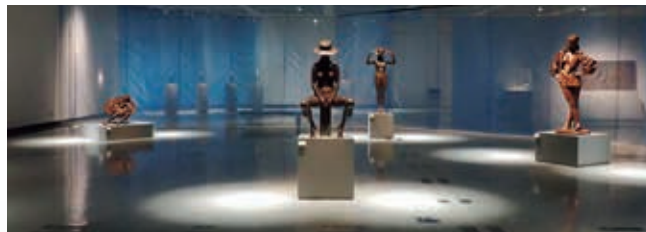
特別企画展

水庭に美をあつめて 佐川美術館コレクション

令和8年 2.14(土)～3.15(日)

主催／福井県立美術館 特別協力／公益財団法人SGH文化スポーツ振興財団

後援／福井新聞社、NHK福井放送局、FBC、福井テレビ、FM福井、福井ケーブルテレビ さかいケーブルテレビ、こしの都ネットワーク、月刊URALA



佐川美術館(滋賀県)より選りすぐりの作品をご紹介した本展覧会では、同館コレクションの中心である日本画家・平山郁夫、彫刻家・佐藤忠良、陶芸家・楽直入(十五代吉左衛門)の作品を70点以上ご紹介いたしました。一作家につき一つの展示室で構成する充実した内容と、さらに比叡山延暦寺にゆかりのある国宝の梵鐘も公開し、当館では10年ぶりの国宝展示となりました。展示室に響く鐘の音 ※録音 とともに、美空間をご堪能いただきました。

関連イベント

●手塚雄二特別館長によるギャラリートーク

〔日 時〕2月14日(土) 午後2時～

〔講 師〕手塚雄二(福井県立美術館特別館長、
東京藝術大学名誉教授、日本美術院同人・業務執行理事)

〔参加人数〕57人



●佐川美術館学芸員によるギャラリートーク

〔日 時〕2月15日(日) ①午前11時～ ②午後2時～

〔講 師〕井上英明氏(佐川美術館・学芸統括)

〔参加人数〕66人



●[キッズミュージアム] 砂絵で日本画体験ワークショップ

〔日 時〕2月28日(土) ①午後1時30分～2時30分 ②午後3時～4時

〔講 師〕深井千尋氏(佐川美術館・学芸員)、
栗田頌子氏(佐川美術館・学芸員)

〔参加人数〕33人



●クロストークサロン

〔日 時〕2月28日(土) 午後5時30分～

〔講 師〕栗田頌子氏(佐川美術館・学芸員)、田中亜季(当館学芸員)

〔会 場〕Café de musée PAPOTER美術館併設喫茶室

〔参加人数〕6人

●さわってみよう佐藤忠良

〔日 時〕3月1日(日)

①午前10時～11時30分 ②午後1時30分～3時

〔講 師〕深井千尋氏(佐川美術館・学芸員)、

栗田頌子氏(佐川美術館・学芸員)

〔参加人数〕110人

●佐藤忠良を語る

〔日 時〕3月8日(日) 午後2時～

〔講 師〕三木俊治氏(彫刻家/元東京造形大学教授)、

下崎滋彦氏(彫刻家/北陸学園芸術科教諭)

〔参加人数〕40人



●担当学芸員によるギャラリートーク

〔日 時〕2月21日(土)、2月25日(水)、3月4日(水)、3月14日(土)

各回午後2時～

〔講 師〕田中亜季(当館学芸員)

〔場 所〕第1～4展示室

〔参加人数〕126人

●ナイトミュージアムコンサート

〔日 時〕2月21日(土) 午後5時30分～7時30分

〔演奏者〕クラリネット 豊永美恵氏

〔主 催〕ミュージアムショップ

〔参加人数〕30人

SAGAWA
ART MUSEUM

《イベント報告》

風景画 綾 きたん 譚



残ラスケープ 映えざいん プロド

同時開催

昭和100年記念

2026 3.27 fri - 5.10 sun

●キッズミュージアム「福井県立美術館 アートハンター ワークショップ」

〔日 時〕 4月25日(土) 午前10時～11時 〔企画協力〕 川口洋一郎氏(ちゃがちゃがゲームズ)
〔主 催〕 福井県立美術館 〔協 力〕 福井県立美術館ボランティアの会
〔後 援〕 福井新聞社 〔参加人数〕 11人

絵の中の人物がどんな気持ちかを考えることをきっかけに、じっくり絵を見る対話型鑑賞会しました



理想の景色、名所や故郷、風景は古くから美術作品の主題であり、「山水図」「風景画」として描かれ続けてきました。本展では、様々な時代、国を越えて描かれた山水図、風景画の様相を辿りました。

風景を主題とした絵画は、古くは遠い土地の光景を伝える役割を担った他、幽境に遊ぶ人々の思いを視覚化したり、写真技術の発展の後には制作者の心情を発露する芸術として、時代とともに変化を遂げていきました。本展では、はじめに「山水幽境」と題して、室町期の山水図を基点に狩野派の山水図が近代に入りどのように変化していったのかを見ていきました。次に、「パースペクティヴ」つまり遠近法や透視図法を機軸に洋画を学んだ近代画家たちの取り組みを紹介。そして「万里の路をゆく」で、東洋の文人たちが大切にしてきた理想の景色を絵に描き、その世界へ心を遊ばせるという独特の世界観に触れ、最後に「異国の情景」として、海外の作家の作品、または海外渡航した日本人画家の作品を展観しました。

併せて、昭和100年の節目を記念して、福井にゆかりのある作家を中心に、昭和という激動の時代に描かれた風景をテーマに展示を行いました。社会や技術が大きく発展し、風景が日に日に変わりゆく中で、作家たちはどのように風景を表現していったのか、迫力ある作品の数々をご覧ください。

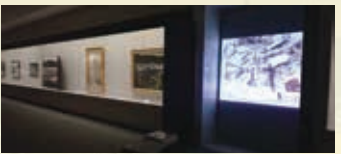
●講演会「風景を取り入れる―戦国大名朝倉氏の居館から―」

〔日 時〕 5月5日(火・祝) 午後2時～3時
〔講 師〕 大竹桃子氏(一乗谷朝倉氏遺跡博物館 学芸員(主査)史跡整備・造園学)
〔参加人数〕 27人

戦国大名朝倉氏の御用絵師・曾我蛇足、小島亮仙の山水画を起点に、戦国大名朝倉氏の居館ではどのようにして「風景」を身のまわりに取り入れていたのか、造園学的な視点からお話いただきました。

●担当学芸員によるギャラリートーク

〔日 時〕 3月28日(土)、4月11日(土)、29日(水)、5月2日(土)、9日(土)
各回午後2時～
〔講 師〕 原田礼帆(当館学芸員)
〔場 所〕 第3～4展示室
〔参加人数〕 71人



《イベント報告》

テーマ展

昭和100年・生誕160年記念

島田墨仙 ～福井生まれの歴史人物画の巨匠～

2026年 5月13日 水 - 6月7日 日

令和8年は近代福井の美術を語る上で欠かせない日本画家・島田墨仙の生誕160年であるとともに、昭和100年の節目の年にあたります。それを記念し、昭和期に輝きを放った墨仙と、画家であった島田家の人々を、作品や時代背景とともに紹介しました。

かつて福井に覇をなした父・雪谷、アメリカの博物学の進展を担った兄・雪湖の基準作を当館のほか、福井市立郷土歴史博物館や個人所蔵の作品から示し、福井の優れた画人たちを紹介する場となりました。

会期中は、ギャラリートークの他、鑑賞ワークショップや講演会も行いました。

●担当学芸員によるギャラリートーク

〔日 時〕 5月17日(日)、5月23日(土) 各回午後2時～3時
〔講 師〕 佐々木美帆(当館主任)
〔場 所〕 第4展示室 〔参加人数〕 50名



●福井県立美術館 アートハンター ワークショップ

〔日 時〕 5月23日(土) 午前10時～11時 〔場 所〕 第4研修室、第4展示室
〔協 力〕 福井県立美術館ボランティアの会 〔参加人数〕 9名



●講演会「島田家の画人たち」

〔日 時〕 5月24日(日) 午後2時～3時30分 〔場 所〕 講堂
〔講 師〕 佐々木美帆(当館主任) 〔参加人数〕 20名

福井生まれの歴史人物画の巨匠
島田墨仙

▶ ボランティア研修報告

福井県立美術館ボランティアの会 先進館視察

令和8年3月28日(土)
引率：佐々木美帆(当館主任)

参加者：ボランティアの会員5名
研修先：長野県立美術館

図書スペースがあり来館者が気軽に手に取ることができ、図書を活用できることができし、美術館に足を運ぶきっかけになると思いました。トーベ・ヤンソン展は色彩が豊かで魅力的でもう一度本を読んでみようと思いました。常設展のグループで感じたことを言いながらの鑑賞は自分一人で鑑賞するより見え方、感じ方がより深くなるように思いました。また、アート・コミュニケータというボランティアがすごく活躍していることに驚かされました。

佐孝美也子

長野県美術館で対話型鑑賞を体験し、ファシリテーターの本来の役割を肌で感じることができました。それは知識を教えることではなく、参加者一人ひとりの言葉を丁寧に引き出し、全員で作品をじっくり深めていくための「サポート」に徹することです。コミュニケーションを大切に、誰もが安心して発言できる空気感を作ることこそが、参加者の鑑賞質を左右するのだと実感しました。

また同館では、東京都美術館のアートコミュニケータ「とびらー」の流れを汲んだ育成が行われていました。対話型鑑賞の技術はもちろん、接遇や対話の基礎がしっかりとプログラム化されており、美術館側が明確な方針を持ってボランティアを育成する体制がよくわかりました。

今回の学びを福井県立美術館のボランティア活動にどう活かすかを考えた際の大きな課題は、任期のあり方です。「とびらー」では2年の任期があり、任期終了後地域でのアート活動で活躍できる人材として美術館から「とびだす」ことになります。福井では卒業という区切りをなくし、むしろ経験を積んだボランティアが継続して関わることでできる仕組みは作れないでしょうか。今回の視察をヒントに、ボランティアが美術館の枠を超え、地域の中でアートの魅力を広めていく可能性や、福井ならではの「息の長いアートコミュニティ」のあり方に期待したいです。

竹内朋美

企画展、常設展を鑑賞したあと、大人探検隊なるものに参加しました。作品を見て、解説を聞く機会はあっても少人数で予備知識なくただ自分の思いを口に出して話し合いながら鑑賞するというのは、一般の観覧者にとって新鮮な体験だと思います。他の人たちの考えにうなずいたり、はっとしたりしながら、ふと、以前に私たちボランティアの解説班によるテーマ展の解説でもこんな風にお客様と和やかに話しながら鑑賞したことが思い出されました。

最後には、先方の職員の方より、これからの美術館の在り方や可能性、アート・コミュニケータさんについて伺いました。沢山の体験をして学んだことも多く、とても有意義な一日研修でした。ありがとうございました。

松田育枝

企画展ではまずトーベ・ヤンソンさんの初期の油絵の色彩感覚の豊かさに驚かされました。また作品世界を元にした映像コーナーが数ヶ所設けられており、この企画展においては動きをプラスすることで作品の魅力がさらに上がっているように感じました。

常設展では長野県立美術館の教育普及担当者をアート・ファシリテータに、3作品について長野県美独自の「対話」鑑賞に参加しました。福井県美のボランティアの皆さんと同じグループになり、さまざまな感想や意見を交換しながらそれぞれ異なる観点を共有し、問いの正解や作家の背景については棚上げにする、という鑑賞方法でした。グループでじっくり作品を見つめていると、ひとりで鑑賞しているときは違い、自分の見え方感じ方が変化していくのが面白かったです。いっしょに知らない世界に迷い込み、お互いの自分とは違う感性に助けられつつ作品に隠された秘密に近づいていくような楽しさがありました。

山川みか子

本視察では、アート・コミュニケータが大切にしている対話型鑑賞「おとな探検隊」を体験しました。作品の説明や正解は示されず、「間違いはない」との声がけにより心理的安全性が確保され、参加者が自由に言葉にできる場が整えられていました。対話の中で、これまでにない不思議な感覚を覚えました。

最初に対話鑑賞したのは、歪んだ黒いベッドと暗い空間に座る女性が描かれた作品でした。当初は戸惑いや苦しさを感じましたが、他の方が「立ち上がろうとする強さ」を見いだしたことで、見え方の違いに気づきました。さらに黒い背景に金色のモチーフが描かれた作品では、当初の印象が題名と違う事が分かり、多様な解釈が共有されました。その過程で最初の作品に立ち返ると、重苦しさは和らぎ、女性の姿は力強く、白いシャツもより明るく感じられました。

対話を重ねることで印象や理解が変化する体験は、他者の意見に耳を傾ける重要性と、自身の感じ方を言葉にする意義を実感させるものでした。鑑賞後も情景が鮮明に想起されるなど、深い記憶として残っています。本取り組みの魅力を強く実感するとともに、このような機会に感謝します。

米谷美保

美術館がとても広く美しく、図書スペースは来館者が入り易く、手に取り易くなっているのがよかったです。ムーミンの作者の色使いが、本当に可愛くて楽しくなりました。

吉岡直子

次回展覧会のお知らせ

誕生70周年記念

ミッフィー展

2026(令和8)年9月19日(土)―11月8日(日)

休館日 / 9月28日(月)、10月5日(月)、19日(月)、26日(月)

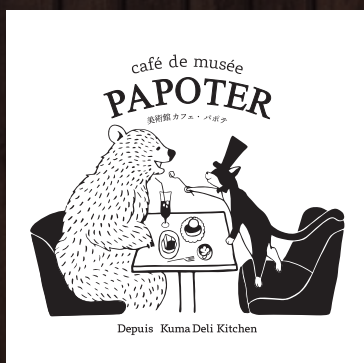
オランダの絵本作家でグラフィックデザイナーのディック・ブルーナさんの手によって1955年に生まれた「ミッフィー（うさこちゃん）」が、2025年に誕生70年を迎えました。

ブルーナさんが手がけたミッフィーシリーズの絵本は全32作品。「もっと、もっと、ミッフィー」をテーマに本展では、初来日となる『うさこちゃんおとまりにいく』（1988年）、『うさこちゃんのだいすきなおばあちゃん』（1996年）の原画をはじめ、全32作品の原画やスケッチなど約200点が日本で初めて一堂に会します。

ぬくもりあふれるストーリーや、愛らしい登場人物たち、リズムカルな言葉や、グラフィカルな色、線、構図など、もっと深く、もっと楽しく、もっと、もっとミッフィーを好きになれる展覧会です。



『うさこちゃんとたれみみくん』印刷原稿 2006年
Illustrations Dick Bruna © copyright Mercis bv, 1953-2026 www.miffy.com



【営業時間】
午前9時～
午後5時

【定休日】
不定休
* Instagram、
店頭のカレンダー
をご覧ください。



小野忠弘展コラボセット

人生のほとんどを三国ですごした小野忠弘先生。三国の海から見る夕暮れをイメージしたオリジナルドリンクです。さっぱり濃厚なオレンジジュースとエスプレッソクリーム。お好みで追いエスプレッソを。小野先生の見ていた景色に想いを馳せながら、小さなお菓子と共にお召し上がりください。



お知らせ

◎2026年7月～9月の休館日について

館内メンテナンス、展示替え等のため下記の日程は休館とさせていただきますのでご了承ください。※■は休館日です。

2026年 7 月 July							8 月 August							9 月 September						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4						1				1	2	3	4	5
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
26	27	28	29	30	31		23/30	24/31	25	26	27	28	29	27	28	29	30			



美術館のHPはこちら